福澤諭吉が緒方洪庵の未亡人に保命酒を持参！

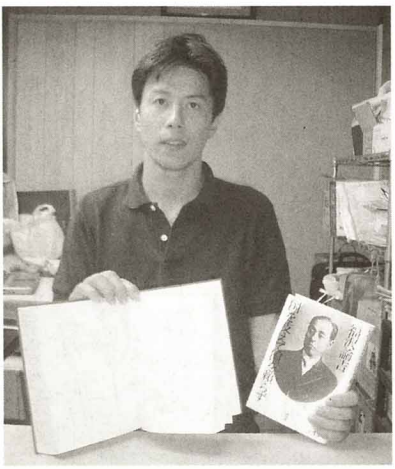
経済リポート 07.9.20　1243号

「福澤諭吉伝」などの文献で発見

中島基晴さん　慶應義塾創立150周年を記念

来年創立150周年を迎える慶應義塾大学（東京都港区三田、安西祐一郎塾長）の創立者・福澤諭吉は、幕末に老中を務めた福山藩主・阿部正弘と親交があり、恩師である適塾（大阪）の開設者・緒方洪庵の未亡人に鞆の浦の名産、保命酒を持参していたことが文献で分かった。

その史実を発見したのが保命酒など地元の食材を使った商品の企画・開発を手掛けている㈱中島商店（福山市御船町1-13-5、電084・922・4870、http://nakatakku.com）の中島基晴専務（40）。



福澤諭吉と保命酒など福山藩との関係を記した文献を前にした中島さん

中島さんは広大附属福山高校から慶應義塾大学商学部に進み、卒業後、伊藤忠商事、慶應義塾に勤務し、1997年中島商店に入社。仕事の傍ら、保命酒に強い興味を示し、地元の名産品を組み合わせ全国に発信できる商品を開発。さらに、幕末にペリー提督が開国を迫るため、浦賀（横須賀市）に「黒船」で来航した際、幕府主催の晩餐会に老中の阿部が保命酒を献上したことを突き止め、05年には静岡県下田市を訪れたペリー提督の子孫に保命酒をプレゼントした。

今回の史実発見は、慶應義塾が創立150周年を迎え、幕末から明治の変革期に活躍した母校の慶應義塾創立者、福澤が福山藩と接点があったのではないか、という中島さんの発想から実現した。福山市立図書館や福澤研究センターで調査する中で「福澤諭吉書簡集」と「福澤諭吉全集」（以上慶應義塾編）で「福澤先生は、故郷中津藩から上京の際、明治三年（1870年）十二月七日朝に鞆の津（鞆の浦）に到着」、さらに「福澤諭吉伝」（石川幹明著）で「（福澤は）すでに名士であり大名家との付き合いも増えており、阿部家の一人娘に縁談を世話してやったことから親しくしていたという」「お土産として『保命酒』一箱四本入りを十箱も送られている」「四・五日滞在後、十二月十二日暁に鞆の津を出港、途中、大坂の恩師緒方洪庵の未亡人宅へ向かい、保命酒を贈る」という史実をつかんだ。

中島さんはこの史実を全国にアピールするため、9月1日に広島市で開かれた「慶應義塾創立150周年記念講演会　学問のすすめ21」の会場で裏面に保命酒と福山藩の歴史、福澤との関連を記したラベルを貼った保命酒飴（あめ）「保命玉」を配った。

今後、来年開かれる創立150周年に向け、地元の同窓会（広島県東部三田会＝林克士会長）の協力で保命酒を使った新商品を発表する予定。

中島さんは「今後は、もっと歴史を深く掘り下げて研究し、商品と共に福山の情報を発信できれば」と話している。